

干潟を含めた浅海域の生態系研究

研究の目的

香川県は海面養殖発祥の地であり、水産養殖業が盛んな反面、過去の赤潮被害は大きく、また近年はノリの色落ち問題に苦しんでいます。本プロジェクトでは香川大学のチーム瀬戸内海が、地元香川県と連携し、干潟を含めた浅海域の生態系について理解し、かつ、「好漁場は浅海から」のコンセプトで、水産養殖場の環境管理も含めて、水産環境の保全・修復を考えます。さらに、浅海域の生態系をどのように守り維持してゆくかを自然科学および法律の立場から追求します。

到達目標

干潟域を含めて浅海域の基礎生産者である微細藻類の生産力とその生産環境について、特に栄養塩類の動態について検討するとともに、浅海域の生物生産環境の短期・長期変動を明らかにします。干潟域については低次生産者を中心にその餌の栄養価から食物連鎖系を明らかにします。また、干潟域の植物の環境ストレス耐性メカニズムについても明らかにします。以上を通して干潟を含めた浅海域の生態系とその特長を明らかにします。さらに、水産魚類養殖場の富栄養化防止と環境保全策について提言します。また、海域特性に応じた物質輸送メカニズム解析を実施し、開発行為による海域環境影響評価を可能にします。さらに、条例の制定等により、高松市郊外の干潟を干潟特別保護区として指定することを提案します。



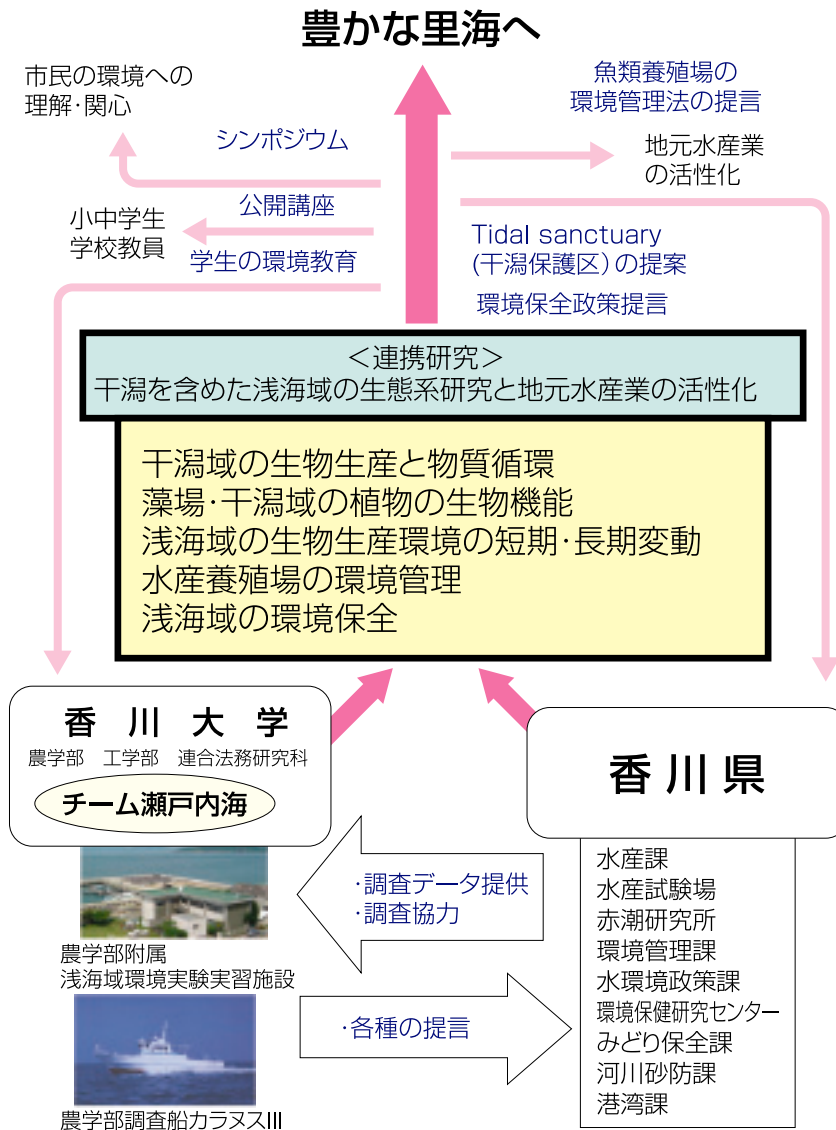
研究課題

本プロジェクトの研究目的達成のため、以下の5つの研究課題に取り組みます。

1. 干潟域の生物生産と物質循環
2. 藻場・干潟域の植物の生物機能
3. 浅海域の生物生産環境の長期・短期的変動
4. 水産養殖場の環境管理
5. 浅海域の環境保全

また、本研究内容は平成20年度文部科学省・連携融合事業（3年間）に採択されており、その一環として実施されています。

プロジェクトの全容



地域との連携

本プロジェクトは、チーム瀬戸内海のメンバーと地元香川県が連携融合事業として協力して実施しています。

〈研究組織〉

【チーム瀬戸内海】

研究代表者：多田 邦尚（農学部）
研究分担者：田島 茂行（農学部） 田村 啓敏（農学部） 中山 充（連合法務研究科）
末永 慶寛（工学部） 石塚 正秀（工学部） 井面 仁志（工学部）
一見 和彦（農学部附属浅海域環境実験実習施設） 山田 佳裕（農学部）
東江(野村)美加（農学部）